



イルカはなぜ何でも覚えるの

イルカの脳は高等

イルカ類は大きくて、高等な脳をもっています。

動物の体の大きさに対して、大きな脳をもつ動物を順に並べると、人、イルカ、馬、アフリカゾウ、大型歯クジラ、ひげクジラ類の順に並びます。イルカは、人について大きな脳をもっています。

また、高等な脳の割合が大きい順では、人、イルカ、マッコウクジラ、アフリカゾウがほとんど同じで、少し間をおいて馬、ひげクジラ類の順になります。また、イルカの脳のしわは非常に多く、脳のしわが多ければ、それだけ表面積が大きくなり、多くの神経細胞をもつことができます。このように、イルカは大きくて高等な脳をもっています。

記憶力と知恵

バンドウイルカ、シャチ、ゴンドウクジラといった水族館のイルカたちは、むずかしい芸を短いあいだに覚え、チンパンジーの10倍も物覚えがいいともいわれています。芸は学習によってマスターしますが、知恵となると、少しちがいます。

チンパンジーは、手の届かない、おりの外においてあるバナナを、おりの中にあつた棒きれで引き寄せて取ることができます。また、天井から下げたバナナは、おりの中にある木箱にのって取ろうとします。それでも手が届かないとき、木箱を積み上げる方法を発見できます。どうすればいいのかを考える力が知恵ですから、チンパンジーは、大変な知恵をもっているといえます。

イルカも気泡を出してリングを作つて遊んだりできる、かなり高等な動物です。どちらがすぐれているか学者さんたちも研究しています。（監修・今泉 忠明）

